

○摩訶般若波羅蜜多心經

かんじーぎいぼーさつ ぎょうじんはんじやーはーらーみーたーじー しょうけんごーおんかいこう

觀自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空

どーいつぶくーやく しゃーりーしー しきふーいーくう かうふーいーしき しきそくぜーくー

度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異色 色即是空

くーそくぜーしき じゆーそーぎょうしきやくぶーによーぜー しゃーりーしー ぜーしよーほーくうそ

空即是色 受想行識 亦復如是 舍利子 是諸法空相

ふーしょうふーめつ ふーくーふーじよう ふーぞうふーげん ぜーこーくうちゆうむーしき

不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中無色

むーじゆーそうぎょうしき むーげんにーびーぜつしんにー むーしきしょうこうみーそくほう

無受想行識 無眼耳鼻舌身意 無色声香味觸法

むーげんかい ないしーむーいーしきかい むーむーみようやくむーむーみようじん ないしーむーろうしー

無眼界 乃至無意識界 無無明亦無無明尽 乃至無老死

やくむーろうしーじん むーくーしゆうめつどう むーちーやくむーとく いーむーしよーとくこー

亦無老死 無苦集滅道 無智亦無得 以無所得故

ぼーだいさつたー えーはんじやーはーらーみーたー こーしんむーけいげー むーけいげーこー

菩提薩埵 依般若波羅蜜多 故心無罣礙 無罣礙故

むーうーくーふー おんりーいつさいてんどうむーそう くーぎょうねーはん さんぜーしよーぶつ

無有恐怖 遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃 三世諸仏

えーはんじやーはーらーみーたー こーとくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい

依般若波羅蜜多 故得阿耨多羅三藐三菩提

こーちーはんじやーはーらーみーたー ぜーだいじんしゆー ぜーだいまようしゆー ぜーむーじようしゆー

故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪

ぜーむーとうこうしゆー のうじよういつたごー しんじつふーこー

是無等等呪 能除一切苦 真實不虛

こーせつはんじやーはーらーみーたーしゆう そくせつしゆーわつ

故説般若波羅蜜多呪 即説呪曰

ぎやーていぎやーてい はーらーぎやーてい はらうぎやーてい ぼーじー そわかー

羯諦 羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶

はんじやーしんぎょう

般若心經

般若心経読み下し

観自在菩薩が、深般若波羅蜜多を行じし時、五蘊は皆空なりと照見し、一切の苦厄を度したまえり。

舍利子よ、色は空に異ならず、空は色に異ならず。色はすなわちこれ空、空はすなわちこれ色なり。受・想・行・識もまたかくのごとし。

舍利子よ、この諸法は空相にして、生ぜず滅せず、垢つかず淨からず、増さず減らず。この故に空の中に色なく、受・想・行・識もなく、眼・耳・鼻・舌・身・意もなく、色・声・香・味・触・法もなく、眼界もなく、乃至、意識界もなし。

無明もなく、また無明の尽くることもなく、乃至、老も死もなく、また老と死の尽くることもなく、苦・集・滅・道もなく、智もなく、また得もなし。無所得を以って故、菩提薩埵は般若波羅蜜多に依る、故に心に罣礙なく、罣礙なき故に、恐怖あることなく、一切の顛倒夢想を遠離して、涅槃を究竟す。

三世諸仏も、般若波羅蜜多に依るが故に阿耨多羅三藐三菩提を得たもう。

故に般若波羅蜜多を知るべし、これ大神呪なり、これ大明呪なり、これ無上呪なり、これ無等等呪なり、よく一切の苦を除くこと、真実にして虚ならざる。

故に般若波羅蜜多の呪を説く。すなわち、呪を説いて曰く、

ガーター　ガーター　パーラガーター

パラサングアター　ボーデイ　スヴァハー

般若心経○

○修証義

第一章(総序)

生しやうを明あきらめ死しを明あきらむるは仏家ぶつけいちだいじ一大事いんねんの因縁いんねんなり、生死しやうじの中ちゆうに仏ぶつあれば生死しやうじなし、但ただ生死しやうじすなわち涅槃ねはんと心得こころえて、生死しやうじとして厭いとうべきもなく、涅槃ねはんとして欣ねこうべきもなし、是時このとき初めて

生死しやうじを離はなるる分ぶんあり唯ただ一大事いちだいじ因縁いんねんと究竟くわうじんすべし。
人身にんしん得とること難かたし仏法ぶつぽう値たうこと希まれなり、今我等いまわれら宿善しゆくぜんの助たすくるに依よりて、已すでに受け難かたき人身にんしんを受けたるのみに非あらず、遭あい難かたき

仏法ぶつぽうに値あい奉たてまつり、生死しやうじの中の善生ぜんしやう、最勝さいしやうの生しやうなるべし
最勝さいしやうの善身ぜんしんを徒いたずらにして露命ろめいを無常むじやうの風かぜに任まかすること勿なかれ。

無常むじやう憑たのみ難かたし、知らず露命ろめいいかなる道の草くさにか落ちおちん、身み已すでに私わたくしに非あらず、命いのちは光陰こういんに移うつされて暫しばらくも停とどめ難かたし、紅顔こうがんいづく

へか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし、熟観する所に往事の再び逢うべからざる多し、無常忽ちにいたるときは

国王大臣親昵従僕妻子珍宝たすくる無し、唯独り黄泉に趣

くのみなり、己に随い行くは只是れ善悪業等のみなり。

今の世に因果を知らず、業報を明らめず、三世を知らず善悪

を弁まえざる邪見の党侶には群すべからず、大凡因果の道理

歴然として私なし、造悪の者は墮ち、修善の者は陞る、毫釐も

たがわざるなり、若し因果亡じて虚しからんが如きは、諸仏の

出世あるべからず、祖師の西来あるべからず。

善悪の報に三時あり、一者順現報受、二者順次生受、三者

順後次受、これを三時という、仏祖の道を修習するには、其の

最初よりこの三時の業報の理を効い験らむるなり、爾あらざれ

ば多く錯りて邪見に墮つるなり、但邪見に墮つるのみに非ず、
悪道に墮ちて長時の苦を受く。

当に知るべし今生の我身二つ無し、三つ無し、徒らに邪見に
墮ちて虚しく悪業を感じせん、惜からざらめや、悪を造りな
がら悪に非ずと思ひ、悪の報あるべからずと邪思惟するに依り
て悪の報を感じせざるには非ず。

第二章（懺悔滅罪）

仏祖憐みの余り広大の慈門を開き置けり、是れ一切衆生を
証入せしめんが為なり、人天誰か入らざらん、彼の三時の
悪業報必ず感ずべしと雖も、懺悔するが如きは重きを転じて
軽受せしむ、又滅罪清浄ならしむるなり。

然あれば、誠心を専らにして前仏に懺悔すべし、恣麼すると

き前ぜん仏ぶつ懺悔ざんげの功徳力くどくりき我われを拯すくいて清浄しじやうじじやうならしむ、此この功徳能くどくよく無礙むげの淨信じじゆうしん精進しんじんを生長しやうじやうせしむるなり、淨信じじゆうしん一現いちげんするとき、
自じ佗た同じく転てんぜられるなり、其その利益りやく普あまく情非情じじゆうひじじゆうに蒙あづからしむ。

其その大旨だいしは、願ねがわくは我われれ設たて過た去との悪業あくごう多く重おもなりて障道しやうだうの
因縁いんえんありとも、仏道ぶつだうに因よりて得道とくだうせりし諸しよ仏ぶつ諸しよ祖そ我われを愍あわれみ
て、業累ごうるいを解脱げだつせしめ、学道がくだう障さり無なからしめ、其その功徳法門くどくほうもん普あまく
無む尽じん法界ほうかいに充満じゆまん弥綸みりんせらん、哀あわれみを我われに分布ぶんぷすべし、仏祖ぶつその
往昔おうしやくは吾等われらなり、吾等われらが当来とうらいは仏祖ぶつそならん。

我われ昔むかし所造しよぞう諸悪業しよあくごう、皆か由ゆ無始むし貧瞋癡びんじんち、從身じゆうしん口意くうい之所生しよしやう、
一切いっさい我われ今いま皆懺悔ざんげ是かくの如ごとく懺悔ざんげすれば必ずかならず仏祖ぶつその冥助みやうじよあるな
り、心念しんねん身儀しんぎ発露はつろ白びやく仏ぶつすべし、発露はつろの力罪根ちからざいこんをして銷殞しやういんせし
むるなり。

普 回 向

(お経の後にお読みいたします)

ねが 願わくはこの功德を以て 普く一切に及ぼし
 われ 我らと衆生と皆共に 仏道を成ぜんことを

十方三世一切佛 諸尊菩薩摩訶薩 摩訶般若波羅蜜

ご かん げ

○五観の偈

(食事の前にお読みいたします)

一には 功の多少を計り彼の来処を量る

(おいしさを つくつてくれて ありがとう)

二には 己が徳行の全欠を付つて供に応ず

(ふり返ろう 私のおこない その心)

三には 心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす

(言わない やめよう 好き嫌い)

四には 正に良薬を事とするとは形枯を療ぜんが為なり

(身をつくり 心をつくる よき薬)

五には 成道の為の故に 今此の食を受く

(いただきます 今を大事に 生きるため)



般若心經 修証義

編集・発行 曹洞宗貞昌院

Phone 045-843-8852

FAX 045-843-8864

URL <http://teishoin.net>

